

第3回 観音寺市民会館管理運営検討委員会議事録【要約】	場所 平成25年7月18日(木)19:00~21:00
	日時 三豊地区電子計算センター4階
出席者	委員8名(欠席3名)、事務局5名、事務局補2名
議題	(1)第2回観音寺市民会館管理運営検討委員会 会議録について (2)事業計画について ①地域の劇場・音楽堂等の役割・活動内容の分類 ②新市民会館における使命と役割・事業方針(案) (3)その他
<p>1. 開会 開会のあいさつ。</p> <p>2. 委員長あいさつ 委員長あいさつ。</p> <p>3. 議題</p> <p>(1)第2回観音寺市民会館管理運営検討委員会会議録について 資料を元に会議録について説明。修正内容を確認の後、内容を承認。</p> <p>(2)事業計画について ①地域の劇場・音楽堂等の役割・活動内容の分類 資料1の内容を説明。</p> <p>【委員質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館や美術館のように、専門的な知識を持っている方が運営することが前提なのか。 <p>【事務局回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そういったケースもある。 ・直営の施設になると、市の職員が運営をしていかなければならない。専門的な知識を持った人や組織が運営している施設と交流を持ちながらプログラミングをしていくという事例もある。 ・地域に応じてどう推進していくのか議論する必要がある。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の職員の方が研修を積む場合、市民会館の専属職員となるのか。今までのようなやり方では、3・4年すると移動がある。そうすると困る。 <p>【事務局回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設運営のノウハウが途絶えないよう市が組織として情報を蓄積していけば同じような手法で施設を運営することは可能と考える。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民がワークショップを通じて、施設の運営者になっていくという方法もあると聞かす。 <p>【事務局回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そういった状況を目指すならば、1、2年といった短期間ではなく、中長期的な期間を持って育てるしくみをつくらなければならない。 ・また、市民会館を運営していくためには一定規模の予算が投入されるわけだが、市民が運営する場合、この資金運用の責任まで負わなければならない。そのあたりをどう考えるかも大きな課題になる。 <p>【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用する側からすると、ある程度長いスパンでスタッフの方々に経験を積んでいただきたい。旧市民会館完成当初のスタッフで市役所から専属となっていった方たちは、フェスティバルホールへ照明や音響の研修に行ったという話を聞いた。しかし、現在はそういったことがなされていない。 <p>【事務局回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、この管理運営計画の中では、どういった事業をおこなうのか、更にもその事業を進めていくうえでどういった考え方や方針で運営をおこなうのかを検討する。その次に、それを実現するためにはどういった組織が必要かという検討に至ると考える。まずは、どういった事業をおこなうのかを議論いただきたい。 	

【委員質問】

- ・資料1の中で自主事業といわれているものはどれか。

【事務局回答】

- ・資料1は全て自主事業の事例としてまとめたものである。
- ・自主事業の中にも、金銭的な利益は生まないが、地域の文化活動を盛り上げるための投資的な事業というものもある。
- ・例えば、小学校や幼稚園にアーティストを派遣する場合、施設側がギャラをまかなわなければならないかもしれない。しかし、将来的に子ども達が舞台芸術に触れたいと思うような環境を整えていくための投資だという考えに基づき事業をおこなっていく事も必要だと考える。

【委員意見】

- ・採算性の有無ではなく、自らが企画して主体的におこなっていくものは全て自主事業だということか。

【委員質問】

- ・前回の会で、この市民会館を運営していくうえで必要なのは人だろうという話までいったのではないのか。

【委員回答】

- ・人・組織というのはもちろん重要なことで最終的に検討しなければならないことだが、その前段として、まずはひととおりこの地域でどういった事業をやっていくことが相応しいのか、あるいは望まれるのかについて事例を研究しながら議論を進め、徐々に結論を絞り込んでいきたい。

(2)事業計画について ②新市民会館における使命と役割・事業方針(案)

資料2、3、4の内容を説明。

【委員質問】

- ・最近インターネットを活用した情報の発信という例は増えているのだろうか。

【事務局回答】

- ・増えている。先日お話いただいた Re:born.k の活動もそうであろう。
- ・市民会館も受け身ではなく、自分たちの活動を発信していかなければ、何をやっている施設なのかわからない、という評価になる。多くの方に活動をアピールしていく必要がある。

【委員意見】

- ・情報が集まる場所にならなければならない。集めてそれを発信されるということだろう。

【事務局回答】

- ・ホームページを作成するだけでなく、ホームページに情報が集約されているということを実際アピールしていかなければならない。

【委員質問】

- ・資料4の金額には人件費も含まれるのか。

【事務局回答】

- ・人件費は別だ。

【委員質疑】

- ・これまで市民会館で自主事業を行ったことはあるのか。

【事務局回答】

- ・全てを把握しているわけではないが、市民会館としておこなったことは記憶しているかぎりではない。
- ・ただし、市としてはいろいろな事業をおこなっている。文化祭や市民音楽祭、合併記念事

- 業など、市として事業に携わっていることはある。
- ・スタンウェイピアノのリレーコンサートをおこなったことはある。

【事務局意見】

- ・繰り返しになるが、ある特定の組織や人が運営することを頭に浮かべながら「こんなことを企画してもできない」という思いで計画をつくると新しいものは生まれにくい。まずは、観音寺市の文化芸術を盛り上げていくためにはどういった事業が必要かという点について意見をいただきたい。それをどういった組織が運営していくかということは次の段階の議論だ。
- ・また今後、市民には運営計画に見合った事業がおこなわれているかをモニタリングしていくという意識も必要になる。

【委員意見】

- ・行政が管理するのか、あるいは第三セクターが管理するのかということは今後の検討議題だろう。
- ・図書館の管理をする方は、国に一年あまり研修に行って資格を持つと聞く。劇場や音楽堂等ではこういった研修をする場というのではないのか。

【事務局回答】

- ・数年前まで文化庁で似たような事業が行われていた。各自治体のスタッフが専門性のある劇場に派遣され、いろいろなノウハウを仕入れて、地域にフィードバックしていくという事業を行っていた。派遣した際の給与保障も国が行っていた。地域の文化施設に関わるスタッフを受け入れる講座や研修を行っている劇場もある。

【委員意見】

- ・良いホールは劇場がロビー周りのスタッフを持っている。そういったスタッフをボランティアで育てるという方法もある。自主的に活動している市民会館は多い。委託する部分はしなければならないと思うが、そういったことも必要ではないか。

【委員意見】

- ・公に任せるだけではなく、市民にも運営に関わっていただくということだろうか。そういったかたちが望ましいと考える。

【委員意見】

- ・ワークショップを行うにしても、中心になってコーディネートしてくる人が必要だ。ちいさくまとまって直近の話をするのではなく、こうなりたい、ということテーブルの上に意見を出していったほうが、だんだんと煮詰まってくると思う。カードに自分の意見を書いてそれを張り出しながら話を進める方法もあると思うが。

【事務局回答】

- ・会議形態については柔軟に対応していきたいと思う。
- ・例えば、今ほどの意見を事業計画に入れるとすれば「将来的な市民参画を目指した運営スタッフの育成事業」という言葉で表現できる。

【委員意見】

- ・まだ3回目であり、はじめから制約を設けてしまうのではなく、多岐に渡っているいろいろな話をしながら進めていきたい。
- ・はたして観音寺市民は何を望んでいるのか、ということになると、いまひとつ理解しきれているのか自信がない。

【事務局回答】

- ・これまでの活動を通しての意見を出していただくことも重要であるが、いろいろな方にコミュニケーションを取ってみて日常的にそういった意見を聞いてみることも大切だと考える。

【委員質問】

- ・もっと幅広く活動している人はいるので、もっと多くの方の意見を聞いたほうが具体的になるのではないかと。新聞にサンポートホールが行き詰まるという記事があった。地域の文化活動をしている人々を運営上締め出して溝が深まってしまったのではないかと。こじんまりとしたところで決めてしまうと、不信感が強くなるのでは。
- ・市民会館を定期的に使っている方は他にもいる。全員を呼ぶと凄い人数になるのだが、どこかで接点を持たなければならないのではないかと。

【事務局回答】

- ・理解できるが今回の会においては、各種団体の方々の意見を聞き、全てを反映するということとは視点が違うと思っている。もちろん、事業をおこなうと決定したのであれば各種団体の意見を聞く必要があると思うが、今回の管理運営検討委員会は、こういった事業が観音寺市に必要なのかというおおきな方針・考え方を整理する場であると考えている。

【委員意見】

- ・全体の大きな構成も重要であり、もちろん小さい単位のことでも重要で無視はできないが、ひとりひとりに聞くわけにもいかない。どちらにせよ将来事業計画を出し、具体的にやっていく段階においては各団体がこういった活動をしているか知らなければならないだろう。

【委員意見】

- ・過去の市民会館を利用した団体や個人に関してはある程度の情報はあがるが、隠れたニーズを拾うには不十分だ。地域にこういった団体があり、こういった活動をしているかを知ること、これまでの行政の中で取りこぼしていたものが出てくる。

【事務局回答】

- ・そういった考え方を事業計画の中に含んでもいい。
- ・例えば、今ほどの意見を事業計画に入れるとすれば「地域に潜在化した活動を掘り起こして活動の幅を広げる事業を実施していく」という言葉で表現できる。
- ・このような文言を事業計画に入れ込むと、今後、そういった事業をおこなうのは、市民会館なのか市なのかというような議論を次の段階おこなうことができる。
- ・具体例として資料2というものを作成したが、ここまで細かくこの委員会の中で決める必要はない。もうすこし大きく、この施設がこういった方針に基づいて事業を組立てていくべきかということを議論していただきたい。

【委員意見】

- ・市民のニーズをひとりひとりに聞けるわけではないので、我々委員が日々いろいろな方と話すなかで、そういった意見をすくいあげていくという意識で議論をするとよいだろう。
- ・建築は既に決まってしまうが、「私には話がなかったから使わない」という人はいないだろう。管理運営計画のアプローチの方法によって潜在的ニーズを掘り起こして行ければいい。
- ・特に小ホールは旧市民会館にはなかった機能だ。

【委員意見】

- ・魅力的なホールができたということをアピールしていけば、新しい需要が生まれると思う。

【委員意見】

- ・稼働率が悪いから修繕費は出せないということにしたくない。

【事務局回答】

- ・もちろん、ここは稼働率をあげるためにはこういった仕組みが必要かということも議論いただく場だ。

【委員質問】

- ・資料4には、例として他の自治体の自主事業の収入と支出と行政支出が記載されているが、現在の観音寺の現状はどうか。

【事務局回答】

- ・旧市民会館は貸館事業が中心で、自主事業というものを行っていなかった。収入はホールや会議室のほか機器代などの使用料のみ。人件費込みの持出し額は平成10年、11年頃は約4000万であった。

【委員質問】

- ・資料4の金額には人件費は含まれていないのか。

【事務局回答】

- ・そうだ。あくまで事業に関する予算のみを記載している。
- ・観音寺の場合、公民館活動や文化祭にも市から費用が出ている。市民会館としての自主事業がなかったため数値化できないが、文化芸能活動へ市から予算が出ているのである程度の数値化は可能。次回までに調査し報告できるようにする。

【委員質問】

- ・事業をおこないたいと思っても予算がなければできないのではないかという思いもある。

【事務局回答】

- ・管理運営計画の中で、こういった事業を行っていくことが望ましいという結論を出し、それを受けて市としてどう解釈をしていくのかということになる。
- ・例えば、継続的におこないたい事業があったとしても、財政を圧迫するような活動であれば先細ってしまう可能性もある。適正な支出額というのはどの程度なのかを整理し、できる範囲で対応をするとうい考え方にもなるだろう。
- ・もうひとつ、お金の議論になった時、必ず「赤字」と言われることがあるが「投資」と表現する。自主事業には金銭的な投資をおこなっても、必ずしもお金として利益が返ってくるものばかりがあるわけではない。例えば、将来的に地域に文化活動が根付き、住民の意識が高まり、観音寺に住んでいてよかったと思えるようになり定住促進が図られたり、活動が生まれたことにより全国に観音寺市が認知されるというようなシティセールスができたりする。これは圧倒的な力になる。
- ・そして、市民に投資をおこなうことへの理解を得ることも重要になる。また、その投資が適正におこなわれているかどうか評価する意識、モニタリングする意識も今後必要だ。

【委員意見】

- ・赤字になり、議会でこれは本当に市民の役にたっているのかと言われたとき、稼働率のようなはっきりとした数値でしか対抗できないのではないか。心には残っているというようなメンタルな話としては綺麗だが、それが議会で通るとは思えない。
- ・そのための仕掛けが必要。例えば、週1回のレクチャー教室が3団体あるだけで、それで年間150埋まる計算になる。

【委員意見】

- ・今回の委員会ができた目的の一つに稼働率を上げる、参加する方をいかに増やすかということもある。それを達成するために事業について検討している。

【事務局回答】

- ・稼働率だけで評価されるのではなく、活動内容で評価されるような土壌を目指していくという視点も重要だ。

(3)その他

【事務局説明】

- ・第4回の検討委員会については、8月20日(火)19時から働く婦人の家1階相談室にて開催を予定している。

【委員意見】

- ・新しい市民会館に何を期待するのかというアンケートを取ってみる方法もあるのではないかと。それに答えてくれるとういことは、市民会館に対して前向きな姿勢であるということが考えられるのではないかと。

【委員意見】

- ・アンケートという案がでたが、市民全員にというのはなかなか難しいのではないか。

【委員意見】

- ・ホームページに載せればいのではないか。

【事務局回答】

- ・広報誌を活用することもできる。アンケートの他にもパブリックコメントという方法もある。行うとしても、設問の内容についても検討しなくてはならないだろう。

【委員意見】

- ・使いたい人は使って下さいではなく、既に使っている人をもっと引き込んで意見を聞いていかなければ生きたアンケートにならないのではないか。

【事務局回答】

- ・活動をされている方に意見を聞く場合「こうなってくれば自分たちが使いやすくなる」というような意見も大切だ。しかし、自分たちの利益のみを追求した意見だけでなく、もっと広い視野を持ち、「こういった活動をおこなうことによって観音寺市がよりよくなるのではないか」という視点で発言してもらわなければならない。

【委員意見】

- ・確かに、要望だけになるのは非常に怖い。

4. 閉会

閉会のあいさつ。

以上